

平和のためのドラマ・ソング・トーク

— エリノア・コアさんとの交流



(1) 5年たちました

エリノア・コアさんは *Sadako and A Thousand Paper Cranes* の著者です。「原爆の子の像」に取材した著書「サダコと千羽鶴」は、現在では数カ国語に翻訳され、コアさん自身連へも招かれて講演されています。また、ユニセフ本部の中にも展示されています。日本では「サダコ」の話は教科書教材にもなっています。

前回、エリノア・コアさんが来日してから5年がたちました。その後、新英語教育研究会ではさまざまな方々と交流をしてきていますが、コアさんはその火つけ役だったといえるでしょう。

今年、コアさんは広島でひらかれた女性による平和会議のゲストとして招かれ、帰国する前に東京で交流会を持つことができました。

中学・高校の生徒も含めて50名近くの参加があり、石神井中学校の生徒による劇「サダコ」の上演、黒坂正文さんによるシングアウト、アメリカで学校教育用に製作されたビデオ「サダコ」の上映、東京都立文京高校生によるインタビューというプログラムでした。

交流会は阿原成光先生の人を魅了する話術で大成功。中学生の劇はたいへん迫力があり、また高校生のみなさんも大活躍で、コアさんとのすばらしいひと時を過ごすことができました。

(2) 石神井中学生の熱演に拍手

「サダコ」に感動した阿原先生は、中学生が演じられるように脚本を書かれました。都の演劇大会で入賞をされたとのこと。『サダコ』を核に、「たたくのは誰」とヒクメットの台詞で始まり、峠三吉の詩もおりこまれていました。

(3) 駆けつけてくれた黒坂さん

次に、駆けつけていただいた黒坂正文さんがギターを持って登場。「Hiroshima Students Appeal」「原爆許すまじ」「広場と僕らと青空と」をシングアウト、ボストンのコンサートの再演でした。

(4) 『サダコ』のアニメビデオ

「サダコ」は現在、アメリカの各州の法律によって小学校4、5年生で教えられる必修教材になっています。このビデオは、教室で見た後、核や平和のことについて学習をするように製作されました。まだ、編集段階のもので実際は30分より短くなります。アニメーションは原作と内容が少しちがっていますが、英語もやさしく、日本の高校でも使えそうです。

(5) コアさんの新しい作品が楽しみ

5年前にも長崎を題材にした作品を書きたいと語ったコアさんでしたが、原稿はできているそうです。ただ、出版されるにはあと2、3年かかるとの

こと。物語は長崎で被爆したミエコという女の子の話です。たいへん書道の上手な子でしたが、被爆で絶望し、2度と筆を持つことはありませんでした。書には5つの宝があるといえます。筆、紙、墨、硯と、そしてもう一つ何でしょう。一番大切なのは心です。ミエコさんは友情を通してその心を取り戻します。「ミエコと5つの宝のもの」というタイトルだそうです。

(6) 文京高校生によるインタビュー

Q1. もしコアさんがサダコだったらどうだったでしょうか。

「とてもつらかったと思います。耐えきれなかったでしょうね。サダコはとても勇気がありました。」

Q2. 『サダコ』の本がとてもよく知られていると聞きましたが、今でもよく読まれていますか。

「そうです。アメリカのすべての学校に置いてあって、授業でも読みます。」

Q3. 誰に『サダコ』の話を読んでもらいたいですか。

「ぜひ政治家に読んでもらいたいですね。アメリカやイランの大統領にも。」

Q4. アメリカに核はあるのですか。

「アメリカとソ連などで5万発以上の核弾頭があって、地球を何回も吹き飛ばすことができるほどです。核爆弾は廃絶すべきです。」

Q5. 原子力発電についてはどう思いますか。

「これは難しい問題です。私たちはエネルギーが必要です。しかし、エネルギーを浪費することは考え直さなければなりません。私たちは貪欲です。一人1台冷蔵庫や車を持つのはどうでしょう。アメリカには世界の人口の6%しかいないのに40%のエネルギーを消費しているわけです。」

Q6. アメリカの平和運動について。

「ここ5年で平和への関心が高まってきて、さまざまな運動が展開されてきています。」

Q7. アメリカの若者は変わっていますか。

「短い時間では答えられませんが、平和への問題に関心を持つようになっています。」

活発に質問をした高校生に刺激されて中学生からも質問が出ました。

Q サダコについてどう知ったのか教えてください。

「1949年に初めて日本に来ました。そのとき、広島に行きましたが、悲惨な廃墟を見てとても悲しくなり、2度と行きたくないと思いました。しかし、1962年に友人の招きで復興した広島を訪れ、そのときサダコの子の像を見たのです。心をうたれ、なんとか小説にしたいと思いましたが、資料もさがせず帰国しなければならませんでした。7年後、「こけし」というサダコの日記が手元に届き、それをもとに書いたわけです。」

さらに、会場から、アメリカに滞在しているとき教会で鶴の折り方を子どもたちに教えたことのある方、フランスで平和運動にかかわっている親類を持つ方、オーストラリアから広島大学に平和教育を研究しに来ている方などから発言があり、交流を深めました。

(1) ひろがれ千羽鶴

シアトルに「原爆の子」の像が建設されたとのこと。ニューメキシコではキャミー・コンドンさんの手で子どもたちによるTwin Statueの建設計画が始まっています。実はキャミーさんにコアさんを紹介したのは私たちだったのです。コアさんにA Thousand Cranesをうたっているフレッド・スモールさんのことを紹介しました。また、この交流会のことがJapan Timesの行事欄に掲載されたことから、『トットちゃん』の訳者、ドロシーさんからコアさんとぜひお会いしたいとの電話がありました。

このような人々の手で折りつがれる千羽鶴のように、私たちのネットワークは広がっていきます。

(国際部・文真・浅川和也)

